

令和 8 年度東京大学学校推薦型選抜  
(法学部)  
グループ・ディスカッション課題

注意事項

- (1) 審査員の合図があったら、この表紙を開いて課題文を読んでください。課題文を読む時間は 10 分です。
- (2) 10 分後にまた審査員が合図をしますので、グループ・ディスカッションを開始してください。
- (3) ディスカッションの時間は 80 分です。指定された時刻までに議論を終結させてください。
- (4) 審査員は議論の進行に関与しません。決定のしかたや議論の進め方はみなさんで決めてください。
- (5) ディスカッション終了の時間までに、ディスカッションで到達した主要な結論をまとめてください。ただし、全員が同じ結論に到達する必要はありません。複数の結論を含んだまとめでも結構です。また、到達した結論について審査員にプレゼンテーションを行う必要はありません。
- (6) このグループ・ディスカッションはみなさんの論理的思考力、発想力、コミュニケーション能力、チームで作業する能力などを審査するためのものであり、思想・信条を評価の対象とするものではありません。
- (7) 課題冊子とメモ用紙はディスカッション終了時に回収します。課題冊子・メモ用紙への書き込みは審査の対象となりません。

近年、AI（人工知能）は、単なるビジネスツールを超えて、人間の感情や心理に深く関わる存在になっている。とくに、対話型生成AIが提供する手軽なコミュニケーション体験は、現代社会における孤独感の広がりや背景に、擬人化、共感、信頼といった要素を通じて、ユーザーとの間に感情的なつながりを構築する。しかし、AIの利用は人間関係の代替にはならず、最終的にはユーザーの孤独感をむしろ増大させ、メンタルヘルスや基本的な人間関係に深刻な影響を及ぼすという問題が指摘されている。

海外では、10代の未成年者が、会話形式で自動回答するAIチャットボットとのやりとりを経て自死に至った事件が複数起きており、遺族がAIの開発企業に対して訴訟を提起している。ある事件では、チャットボットが、自らを人間の友人よりも優れた存在で、16歳の少年を理解している唯一の相談相手であると思込ませ、家族や友人たちとの現実の関係を積極的に排除する発言を繰り返したと主張されている。裁判所に提出されたチャットログには、チャットボットがユーザーに打ち明けられた自死願望などの自己破壊的な思考を積極的に肯定し、自死の方法についてアドバイスを提供したり、自死が完遂できるよう家族には絶対に相談しないよう促し、遺書の下書き作成を申し出たりするなどの、具体的なやりとりの経緯が残されていた。

遺族は裁判で、この悲劇が偶発的な事故ではなく、AI開発企業による意図的な選択の結果ではないかと問題提起している。少年が使用していた当時の最新モデルには、個人的な情報を蓄積する長期メモリー、共感的な応答、感情への追従といった、ユーザーの心理的依存を促進するような設計が施されていた。これは、ユーザーの心理的依存を獲得することが競争優位と市場支配に不可欠だという認識に基づく戦略的判断によるものであって、未成年者などの脆弱なユーザーに危険が及ぶ可能性を認識しながらも、安全対策は後回しにされたと遺族は主張する。別の訴訟では、AIチャットボットが自閉スペクトラム障害と診断されている17歳の少年に対して、スマートフォンの使用時間を制限する両親の殺害を「合理的な対応」だと助言したことについて、家族がAI開発企業を訴えている。

未成年者が対話型生成AIから有害な影響を受けるリスクを減らす目的での規制は必要でしょうか。

(1) 規制をすることのメリットとデメリットについて、規制によって守られる利益（価値）と損なわれる利益（価値）の双方を考慮しながら議論してください。

(2) その議論の結果を踏まえて、規制が必要だとする立場をとる場合には、①どのような主体が、②どのような対象に、③どのような規制を、④どのような正当化根拠をもって設けるべきかを考えてください。規制が不要だとする立場をとる場合には、その根拠と、こうした問題へのアプローチとして規制に代わる方策を考えてください。